

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果から、数学では、作図を行って証明を行う問題、式やグラフを用いて説明する問題、図を比較して説明する問題、国語で本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する問題、図の役割について理解する問題、話し合いの中で、理解したことや、自分の考えの変容を説明する問題の平均正答率が低い。

○「生徒質問」の結果から、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについては、肯定的な回答が多い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○ICT機器の活用を学力向上につなげられるように、活用の仕方を工夫をする。

○生徒が主体的にめあてを達成するために、学習過程の見通しをもたせ、学習計画を立てさせることが必要である。

○対話を通して互いを高め合い、深い学びにつなげるために、生徒一人ひとりの考えを友達同士で交流する場面を増やす必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○「板橋区 授業スタンダードS」に基づいた指導を展開し、「ねらい」「流れ」を明確にするとともに必ず「振り返り」の活動を行う。また、読み解く力を身に付ける授業を実践し、生徒自らが主体的、対話的で深い学びの実現にむけた授業を行う。

○生徒が知識・技能を習得し、習得した知識を活用して考える力、表現し伝える力を育むために、問題解決型・探究型の学習活動を重視し、生徒が主体的に学習に取り組めるよう授業改善を進める。

○ペアワークや4人のグループ学習を積極的に進め、生徒一人ひとりが自分の考えを友達に伝え、友達の意見を取り入れ、相互に意見交流をしながらよりよい考えを能動的に作り出す協働学習を推進する。

○数学において少人数習熟度別授業を行って、個に応じたきめ細やかな指導に努める。

○一人一台端末の活用や授業方法の工夫について、校内研修や研究授業を実施し、積極的活用を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードSの工夫	視点2 読み解く力の育成	視点3 総合的な学習の時間との連携
○興味・関心や能力・特性に応じて子供が学びを自己調整し、教材や方法を選択できるように一人一台端末を活用した授業方法を工夫をする。	○基礎的読解力の6分類等の明確な視点をもって教科書等を読み取る場面を設定する。RSTの結果を分析し、文章の読解に必要な力の苦手な部分を把握し、つまづきに応じた指導の工夫を行う。	○総合的な学習の時間では、物事を多面的・多角的に考える視点を大事にし、問題解決へ向けて仲間と協働していく。また、各教科で学んだことを生かす場面とする。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○「キャリア教育」や「環境教育」では、小中で同じテーマを扱うことで、発達段階に応じて次第に考えや理解が深まっていくように設定をする。	○総合的な学習の時間では、生徒の発達段階や教科の学習内容に合わせ、7学年・8学年では「環境教育」、9学年では「SDGs」を中心に、全学年で「郷土愛の育成」「読み解く力の育成」に重点を置き、カリキュラムを編成する。	○生徒の一人一台端末を、生徒同士が考えを交流する場として活用したり、発表資料を協力して作成する場として活用したりすることで、協働的な学びを実現する。また、すららドリルを活用し、生徒一人ひとりの特性や学習進度、学習到達度に応じて学べる時間を設定する。さらには、授業の振り返りを一人一台端末で行い、生徒の変容を把握しやすくすることで、授業改善につなげる。